



写真:ソボリンゴカミキリ (撮影:平成26年6月23日)

「ソボリンゴカミキリ」

ミヤマキリシマのことが食べてしまいたいほど大好き

多くの人が愛される霧島山花時期には多くの人でにぎわいます。よく「食べてしまいたいほど好き」という表現がありますが、もしかしたらソボリンゴカミキリが一番ミヤマキリシマのことが好きなのかもしれません。

幼虫はツツジの生木を食べ、成虫は葉を食べます。名前の由来は宮崎県と大分県の境にある祖母山です。近年、日本各地で分布を拡大していますが、ミヤマキリシマ等が植栽される際、この虫も共に運ばれているのかもしれない。

7月、花の時期を終えたツツジの上をこの虫が飛翔します。ちょうど人の目の高さをフワフワと飛ぶ姿は「ツツジの妖精」と表現しなくなりません。人から見ると、ツツジを枯らす「害虫」ですが、人より長く霧島山に住み、火山活動植生の栄枯盛衰と共生してきた彼らと上手に付き合っていきたいものです。

(文/えびのエコミュージアムセンター)

ソボリンゴカミキリ コウチュウ目カミキリムシ科
Oberea sobosana